



A 玉川大学農学部の出田ほやけり先生が、6
年と8年と9年と専用グラウンド。積極的に参加し
た芝生グラウンドは、はたはたの子どものための
集会所。 C 専任の外国人教員による授業や
留学先との交流を通して生まれた種々の
国際教育。大型電子試験や音声出るデジ
タルペンなど活用した学習もみられます。 D 各教
室にある「動物コーナー」。子どもたちが先生
が常に一緒に過ごします。 E 仲間と一緒に
音楽を楽しみ、豊かで社会性を身に付ける「楽化
作」。



探究心を刺激するホンモノに触れる学び

「きれいな心・よい頭・つよい体」を育む独自の一貫教育

幼稚園から大学院までが集う61万人の広大なキャンパス。1年生から4年生は四季折々の木々や芝生の広場に囲まれた低学年校舎。5・6年生は中学1・2年生と共に理科や美術の専門施設と隣接する中学年校舎で過ごします。体験学習を中心とした多彩なプログラムで徳育、徳育、徳育をバランスよく育みます。

低学年校舎のホールで行われた3年生の特別授業。15年にわたる交流を続けるベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーを招いて、生演奏を心と体で感じながら自己表現する力を育む教育プログラムです。想像力を膨らませて自由に体を動かす「ムーブメント」と、音楽を色や形に置き換えてグループで絵画を描く「美術」の2つの活動に分かれた子どもたち。パイオリン、ビオラ、チェロによるモーツァルトの弦楽四重奏の演奏が始まると、ジャンプや回転をして躍動的に動いてみたり、しなやかに手足を伸ばしてパレエのように踊ってみたり。大きな樹造紙は、思い思いに描いたカラフルな線や模様で瞬く間に埋まっています。子どもたちと一緒に創造していきます。「子どもたちと一緒に創造していきます。時間」と演奏者が語る授業にシナリオはありませんが、豊かな人間性を育む「全人教育」のもので日常的に音楽、美術、運動に親しむ玉川つ子に戸惑いや躊躇の様子は見られません。曲の合

間では、音を奏でるピアノの振動を直接触らせてもらい、「生忘れない」と高揚する子や「素晴らしい発想だね」とチエロ奏者に作品を褒められて表情を輝かせる子も。再び演奏が始まり、アレグロからメヌエットへと曲調が変わると、動きや色使いを変化させながら夢中で試行錯誤を繰り返します。「ホンモノに触れる経験は子どもたちの知的好奇心のスイッチを入れ、探究心を育みます」と後藤健小学部部長。こうした特別授業の他にもキャンパス内に生息する動物種との触れ合い、学内の教育博物館での史料や美術品の鑑賞、大学施設で直接学ぶ機会など、「学ぶ喜び」を知る多彩な体験学習で、自学自律の基礎を培います。

低学年校舎では授業ごとのチャイムが鳴りません。1・2年生には固定の時間割を設けず、単元の内容や子どもたちの関心に合わせて時間や教科の枠に縛られない総合学習を実践しています。また、パソコンやネットワークを利用した学習環境を整えて、授業を効率よく視覚的に展開できる大型電子黒板を全教室に導入。1年生からiPadで学校紹介の番組作りをしたり、4年生ではパワーポイントでプレゼンテーションをしたりとICT活用も積極的に行われています。4年生以降は学級担任制から教科担任制へと移行。5・6年生からは、自分が選んだテーマを1年かけて学習する自由研究や中学の学習に備えた定期試験が実施され、より高度で専門的な学びへと発展させていきます。